



「ナッジ」応用の意義や進化の方向性

新型コロナウイルスとの闘いが長期化する中、人々が感染リスクの高い行動を避けるようさりげなく後押しする取り組みが広がってきた。行動経済学の知見を応用した「ナッジ(軽く突く)」と呼ぶ手法で、デジタル技術で行動変容を促す実証実験が活発化している。NTTデータ経営研究所社会基盤事業本部ライフ・バリュー・クリエイションユニットでシニアコンサルタントを務める小林健太郎氏にナッジを応用する意義や進化の方向性などについて聞いた。

◇ ◇
— コロナ対策にナッジを応用する動きが広がっている

一定の効果を発揮

小林氏 ナッジは身近

NTTデータ経営研究所 小林シニアコンサルタントに聞く



な生活の場面に浸透し、要不急の外出自粛を徹底する小さな行動変容を促すという観点で見ると、ナッジの効力が低下しているように思う。例えば、スーパーのレジ前に「足跡シール」を貼る、間隔を空けて並ぶように呼び掛けている。災害対策を巡っては、自身の行動が他人を助けることにつながることを意味する「利他性」に着目した研究があり、そうした視点でメッセージの発信を工夫する動きも見られた。ただ、国民が長引く自粛生活に慣れる中、不

要不急の外出自粛を徹底する小さな行動変容を促すという観点で見ると、ナッジの効力が低下しているように思う。例えば、スーパーのレジ前に「足跡シール」を貼る、間隔を空けて並ぶように呼び掛けている。災害対策を巡っては、自身の行動が他人を助けることにつながることを意味する「利他性」に着目した研究があり、そうした視点でメッセージの発信を工夫する動きも見られた。ただ、国民が長引く自粛生活に慣れる中、不

考になる。
— デジタル技術を役立てる利点は
小林氏 一つはデータを獲得できることだ。行動が変わったかどうかという結果をリアルタイムで蓄積して分析できるようになる。さらにスマートフォンや「アップルウォッチ」のような身につける点にデジタル技術を上手

入すると効果的に行動変容を促せる。
— IT大手各社が公の介入とパーソナライズのどちらが有効かという見極めが大事な。
— 技術の進化で期待している点は

行政の力も必要

小林氏 「明るい目」

デジタル技術でコロナ禍の行動変容を

パーソナライズ化にも注目

「明るい目」

「明るい目」

「明るい目」

「明るい目」